

年頭挨拶 2010年1月4日 医学部附属病院長 須加原一博

皆さん 明けましておめでとうございます。新年にあたりご挨拶申し上げます。

昨年の大学病院は、新型インフルエンザをはじめいろいろ問題がありましたが、皆様のご協力により、何とか切り抜けてきました。新たに脳神経外科、内分泌系内科および循環系内科の科長を迎え、次第に活性化されてきております。今年は、それを基盤に大きく飛躍し、新たななる挑戦にトライし再生する年になると確信しております。

新たに導入されました新医療情報システムも1年が経ち、いろいろご迷惑をおかけしましたが、皆様の弛まない努力とご協力により、やっと軌道に乗ってきました。この新システムを生かし、これまで以上に安全、かつ効率のよい良質な医療提供に発展させていきたいと考えております。また、新年1月より検査部に、新たに「検体検査自動処理システム」が稼働いたします。検査結果の迅速化、効率化が図られ、患者サービスが向上すると期待しています。

病院経営では、少し稼働率の低下はありましたが、皆様の努力に加え、7対1看護や診療単価の増加により例年とあまり変わらない状況です。ただ、新たな手術の導入、手術件数の増加に伴い、集中治療室の稼働率も高く、重症患者の受け入れを制限している状況があり、それが救急体制へも影響しています。この1月から集中治療部の2床増床工事に入ります。経営上は大事な時期だと認識しておりますが、できるだけ早くこの状況を解消し、大学病院として地域医療へ貢献することを最優先するためです。ご理解を頂きたいと思っております。手術室およびICUの看護師を増加し、手術回転率増加を図り、大学病院としての活性化につなげたいと考えております。さらに、救急医療の充実、大学病院としての使命であり、最終的には、卒後臨床研修医、マッチングの増加にも繋がっていくものと考えています。新たに周産期医療整備事業が採択され、産科および新生児専門医育成と女性医師支援・育児支援として、院内保育、病児保育に取り組み、進めているところです。補正予算整備として、救急医療環境整備や滅菌洗浄システムの更新が図られ、これまで不十分であった部門が充実してくるものと考えています。

地域連携では、地域医療部および医療福祉支援センターの努力で、新患予約や退院支援なども少しずつ軌道に乗ってきています。県内の脳卒中地域連携クリニカルパスにも加わり、これから糖尿病など4疾患を中心に地域連携が推進されていくと期待しています。この1月には、医療コンシェルジェの支援、導入を考えており、接遇を含めたサービスの改善を図る計画です。また、医師不足に伴う労働軽減を図るため、新たに各病棟に病棟クラーク2人目(メディカルクラーク)を配置しました。如何にクラークを有効利用するかは各診療科の先生方にかかっております。ご指導のほどよろしく申し上げます。

「大学病院の役割、存在意義」については、「多極連携型専門医・臨床研究医育成事業」が2年経ち、専門研修センターを中心に、90名近くの医師が登録され、活用されています。女性医復職支援部門も立ち上がり、県医師会と連携し推進しています。ただ、沖縄全体の研修医に浸透しているとは言い難く、このプログラムの利用法を少なくとも琉大の医学生

には熟知させる必要があります。入学時からこのプログラムの紹介を詳細にしていく必要があるでしょう。来る1月23日には、2回目のこの事業のシンポジウムが開催されます。60以上の全国医療機関から参加されます。これを機に大学間連携、地域間連携を大きく発展させ、実質的な収穫をあげられるように活発なシンポジウムを期待しております。この場をかり、是非皆さんにも多数の参加をお願いいたします。

一方、がん診療連携拠点病院としては、年4回協議会が開かれ、がんセンターを中心に県全体の医療機関の協力のもと、各地での緩和ケア研修会開催（今年は初めて離島でも開催）、5大がんのがん地域連携クリニカル・パスの完成・実施、がん患者必携の導入やがん患者サロン、タウンミーティングなど大学病院としての役割を大いに発揮して頂き、存在意義を示して頂いております。皆さんのご協力に感謝いたしますとともに、今年も大きく発展すると期待しております。新たに肝疾患診療連携拠点病院として、平成21年11月25日付けで指定を受けました。県内の肝疾患診療体制の充実に取り組まなければならないと思います。ご協力をお願いします。

大学病院の広報については、間もなく平成20年度の市民公開講座の概要集が出来上がる予定です。平成21年度は、心臓血管外科に那覇と名護で2回行い、障害者歯科治療についても好評でした。今年度は泌尿器科の公開講座を計画中です。新しい教授の広報を兼ねた公開講座が随時計画できればと考えています。

そのほか、病院機能評価認定の更新（Version 6）に向けた作業が計画されており、皆さんのご協力を仰がなければなりません。新臨床研修機能の評価、地球環境への配慮、チーム医療推進、情報システム管理機能はじめ子育て・復職支援策など新たな評価項目が加わっております。一層のご協力をお願いいたします。さらに、最大の課題は、病院再開発整備についてです。コンサルトを導入しソフト面の計画をある程度進めております。それに合わせたハード面も検討していかなくてはなりません。10～20年先を見据えた夢のある温かい高機能の新病院になるよう期待しています。

新政権になり、概算要求の内示が遅れておりますが、沖縄県地域医療再生事業の一環として、はじめて県、県医師会、琉大病院、県立病院、群星群が一緒になって企画した画期的な事業が提案されております。もし採択されれば、大学病院の機能強化はもちろん、琉球大学として大きく発展する事業と確信しております。懸案事項であります骨髄移植センターの設置が採択されるのか気を揉んでいるところですが、良報を期待しております（採択されたとの報告を6日に受けました）。

最後になりますが、皆さんのご協力・ご支援により大学病院にとって、収穫の多い年になるよう期待して年頭挨拶と致します。